

・

9月上旬、スウェーデン北部の空に現れたオーロラです。長い冬には一面の雪と氷に閉ざされるこの土地も、この季節にはまだ雪がなく、湖面も凍っていません。画面左には静かな湖が広がり、その岸边を縫うように線路が遠くへ延びています。秋を迎えたばかりの北極圏ならではの風景の上に、鮮やかな光のカーテンが舞い降りました。

この夜のオーロラは、緑色を主体としながら、上部が淡い紫色を帯びています。下部の明るい緑は主に高度 100～150km 付近の酸素原子が放つ光で、その上方では窒素分子などの発光が加わることで、紫から青紫がかった色が現れることがあります。特にこの写真では、紫色の部分が濃く塗られたような色ではなく、星々を透かして見せる薄いベールのように広がっているのが印象的です。

しかも、この空には月明かりがあります。月明のある夜は空全体が明るくなり、弱いオーロラは白っぽく埋もれてしまいますが、この夜の光はそれにも負けません。幾筋もの光が空から垂れ下がり、緑から紫へと色を変えながら、まさに燦々と輝いています。雪原も凍結した湖もない9月上旬だからこそ、冬のオーロラとはひと味違う、秋の大地と水辺、線路、そして光の競演を楽しめる一枚です。

(2026年9月上旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス駅／東京から遠隔観測)

